

# 1 令和5年度施策評価について

## 1 目的

### (1) 第10次厚木市総合計画の進行管理

本市の行政運営を総合的かつ計画的に進めるための最高指針である第10次厚木市総合計画の目標に対する達成状況などについて検証を行い、より一層の市民満足度の向上や効果的・効率的な行政運営を推進する。

### (2) 市民に対する説明責任(アカウントビリティ)

施策の達成状況や今後の方向性を公表し、市民の皆様との共有を図ることにより、透明性の高い信頼される市政運営を推進する。

### (3) 効率的で質の高い施策の実現

#### ア 施策の目標等の共有化・職員の意識改革

本市の現状を認識し、施策評価を通じて施策の目標や課題を共有することで、職員一人一人が目指すべき方向性を意識し、事務事業の改善や新たな政策立案につなげる。

#### イ 事務事業(実施計画事業)の効果的・効率的な推進

施策を構成する事務事業(実施計画事業)について、効果的な事業展開が図られているかを評価することにより、より一層の市民満足度の向上や効果的・効率的な施策の推進を図る。

## 2 評価対象

第10次厚木市総合計画第1期基本計画に位置付ける27の基本施策

【対象年度:令和4年度】

## 3 評価方法

第10次厚木市総合計画第1期基本計画の施策の達成目標に位置付ける「代表となる指標」、「市民実感度」及び第1期実施計画事業に位置付ける「事業指標」の目標値に対する達成率を点数化し、各基本施策の総合得点を4段階の評価区分で評価する。また、厚木市総合計画審議会からの意見を踏まえ、総合的な評価を行う。

### (1) 点数化の方法

#### ア 代表となる指標 [配点:50点]

第10次厚木市総合計画第1期基本計画の各基本施策に位置付ける「代表となる指標」の令和4年度の目標値に対する達成率を点数化する。

達成率(%)×50点	【例】 達成率 100%の場合 100%×50点=50点 達成率 50%の場合 50%×50点=25点 達成率 0%の場合 0%×50点=0点
------------	---

#### イ 市民実感度 [配点:30点]

第10次厚木市総合計画第1期基本計画の各基本施策に位置付ける「市民実感度」の令和4年度の目標値に対する達成率を点数化する。

達成率(%)×30点	【例】 達成率 100%の場合 100%×30点=30点 達成率 50%の場合 50%×30点=15点 達成率 0%の場合 0%×30点=0点
------------	---

#### ウ 実施計画事業指標 [配点:20点]

第10次厚木市総合計画第1期実施計画の各事業に位置付ける指標の令和4年度の目標値に対する達成率を点数化する。

達成率(%)×20点	【例】 達成率 100%の場合 100%×20点=20点 達成率 50%の場合 50%×20点=10点 達成率 0%の場合 0%×20点=0点
------------	---

(2) 総合評価区分

総合得点	評価区分	
90 点以上	A	順調
80 点以上 90 点未満	B	おおむね順調
60 点以上 80 点未満	C	やや遅れ
60 点未満	D	遅れ

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響について

令和4年度については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた指標もあったが、年間を通じて緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が発出されなかったため、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた指標についても、評価対象から除外せず、総合得点を算出する。

4 評価者

厚木市行政評価委員会

5 評価結果の活用

評価結果は、実施計画の着実な推進や今後の政策立案に活用するとともに、部・課等のマネジメントツール、総合計画の進行管理及び予算編成等の資料として活用する。

## 2 実感度と重要度の関係について

### 1 実感度と重要度の関係

市民実感度調査では、市の取組に対する実感度と併せて、その取組がどのくらい重要と考えているか、重要度についても調査している。

施策の推進に当たっては、市民の皆様が評価した実感度と重要度の関係を考慮する必要があることから、77項目の実感度と重要度の結果をスコア化し、それらを基に各取組をⅠからⅣに分類する。

分類	実感度	重要度
Ⅰ	高い	高い
Ⅱ	低い	高い
Ⅲ	高い	低い
Ⅳ	低い	低い

### 2 各分類の意味付け

実感度と重要度の関係を用いた各分類の一般的な意味付けは次のとおりである。

#### (1) 分類Ⅰ（重点維持項目）

全取組のうち、相対的に実感度が高く、重要度も高い分類である。ここに分類される取組は、他の取組と比較して、市民ニーズに即した取組ができていると考えられる。現在の水準を維持しつつ、引き続き重点的に取り組む必要がある。

#### (2) 分類Ⅱ（重点改善項目）

全取組のうち、相対的に実感度が低く、重要度が高い分類である。ここに分類される取組は、他の取組と比較して、市民ニーズがあるにもかかわらず、その期待に応えられていない取組であると考えられる。取組の必要性が認識されているものの、取組の向上や改善に対する市民ニーズが高い項目とも言え、市民ニーズを的確に捉え、重点的に改善を図っていく必要がある。

#### (3) 分類Ⅲ（維持項目）

全取組のうち、相対的に実感度が高く、重要度が低い分類である。ここに分類される取組は、他の取組と比較して、必要性の認識は低いものの、成果は実感している取組であると考えられる。着実に取組を進めるとともに、取組の重要性の認識を深めていただく必要がある。また、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性についても検証する必要がある。

#### (4) 分類Ⅳ（改善項目）

全取組のうち、相対的に実感度が低く、重要度も低い分類である。ここに分類される取組は、他の取組と比較して、取組の向上や改善に対する一定のニーズはあるものの、その必要性の認識は低い取組であると考えられる。取組の重要性を更に認知していただくとともに、取組の方向性の改善を検討する必要がある。また、市民の関心度が低い取組であることから、取組によっては行政で対応すべきかを検証する必要がある。

### 3 スコア化の方法

スコア化に当たっては、平均する各項目の条件の差異を考慮に入れ、対応する重み(大小)をつけてから平均する加重平均により、次のとおりの計算を行う。

#### ■項目のスコア化

$$\text{実感度} = \frac{\begin{aligned} & \text{「そう思う」} \times 2 \text{点} + \text{「ややそう思う」} \times 1 \text{点} + \text{「どちらでもない」} \times 0 \text{点} \\ & + \text{「あまりそう思わない」} \times (-1 \text{点}) + \text{「そう思わない」} \times (-2 \text{点}) \end{aligned}}{\text{有効回収数} - \text{無回答}}$$

$$\text{重要度} = \frac{\begin{aligned} & \text{「重要」} \times 2 \text{点} + \text{「やや重要」} \times 1 \text{点} + \text{「どちらでもない」} \times 0 \text{点} \\ & + \text{「あまり重要でない」} \times (-1 \text{点}) + \text{「重要でない」} \times (-2 \text{点}) \end{aligned}}{\text{有効回収数} - \text{無回答}}$$

(例)「急傾斜地の崩壊防止や浸水被害防止など、災害に備えたハード整備が進んでいる」の実感度に関して、有効回収数は 1,091 人で、そのうち、「そう思う」が 44 人、「ややそう思う」が 308 人、「どちらでもない」が 335 人、「あまりそう思わない」が 197 人、「そう思わない」が 40 人、「無回答」が 167 人であった場合、

計算式は、

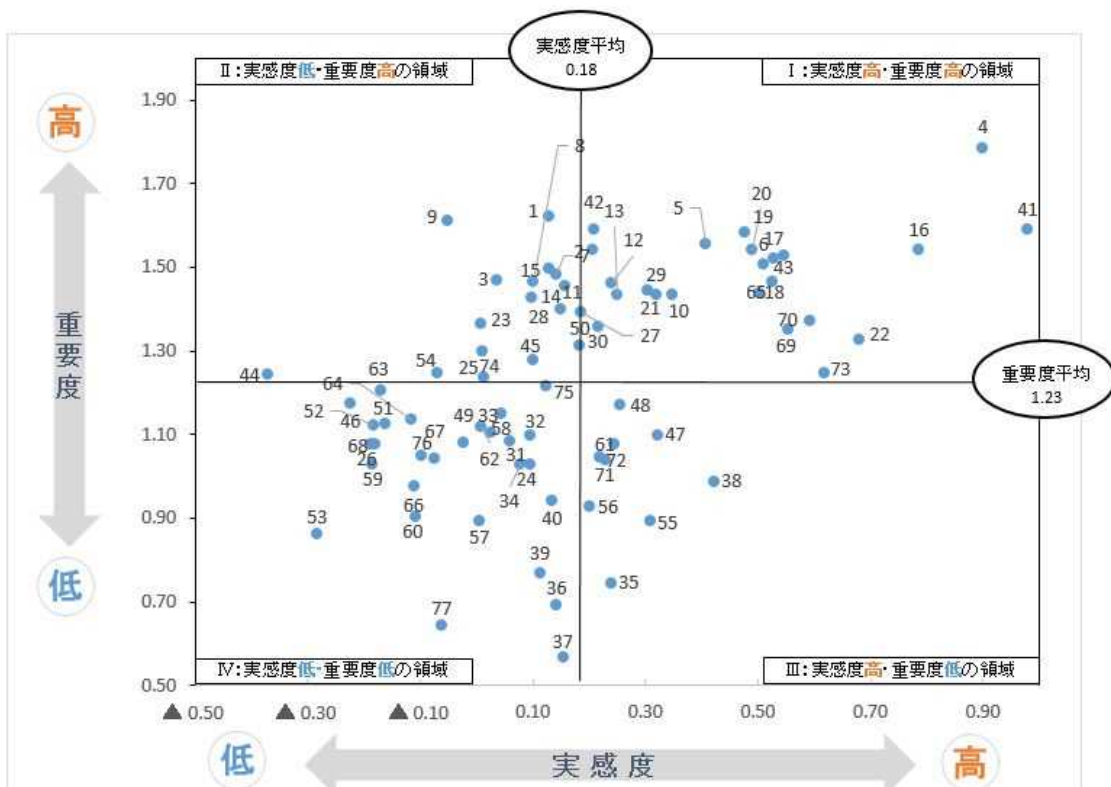
$$\frac{(44 \text{人} \times 2 \text{点}) + (308 \text{人} \times 1 \text{点}) + (335 \text{人} \times 0 \text{点}) + (197 \text{人} \times (-1 \text{点})) + (40 \text{人} \times (-2 \text{点}))}{1,091 \text{人} - 167 \text{人}}$$

≒0.13 となり、「急傾斜地の崩壊防止や浸水被害防止など、災害に備えたハード整備が進んでいる」の実感度のスコアは、0.13 となる。

#### ■各施策の分類

- ・上記の方法で算出したスコアを基に、実感度のスコアを横軸、重要度のスコアを縦軸として分布図を作成し、各項目进行分类する。
- ・2本の補助軸は、実感度及び重要度の全項目の平均値を示したものである。

### 4 令和4年度市民実感度調査結果に基づく分類

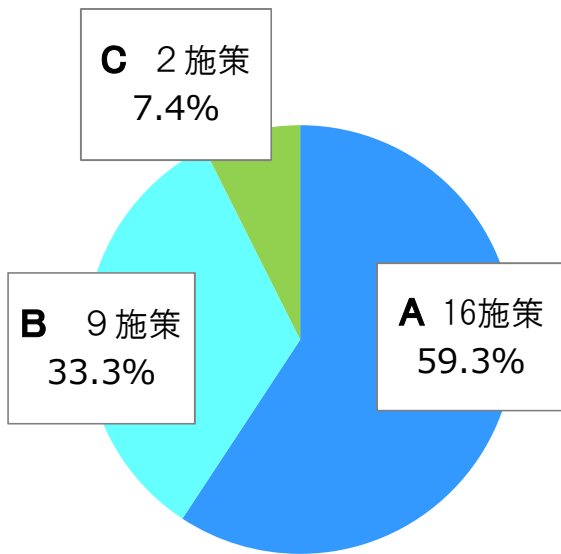


分類	番号	項目(～と思う市民の割合)	実感度	重要度	分類	番号	項目(～と思う市民の割合)	実感度	重要度
I 実感度:高い 重要度:高い	2	災害時の情報伝達手段や防災訓練の実施など、災害対応力強化の取組が進んでいる	0.21	1.54	III 実感度:高い 重要度:低い	35	文化芸術に親しむ機会が提供されている	0.24	0.74
	4	消防・救急・救助体制が充実している	0.90	1.78		38	運動・スポーツ活動の機会が提供されている	0.42	0.99
	5	応急手当の普及に向けた取組が進んでいる	0.41	1.56		47	広域交通網の高い利便性をいかした土地利用が進められている	0.32	1.10
	6	火災予防の啓発など、火災予防の取組が進んでいる	0.51	1.51		48	山地、河川、市街地などの景観が守られている	0.26	1.17
	10	見守り、居場所づくりなど、地域福祉活動が進んでいる	0.35	1.44		55	大山や宮ヶ瀬を含む広域の観光に対する取組が進んでいる	0.31	0.89
	12	高齢者福祉施設の整備など、福祉サービス提供体制が充実している	0.24	1.46		56	温泉、ハイキングコース、イベントなど、観光資源の活性化が図られている	0.20	0.93
	13	高齢者に対する福祉サービスや支援が充実している	0.25	1.44		61	地産地消が進んでいる	0.23	1.04
	16	子育てサービスが充実している	0.79	1.54		71	親しみやすい水辺空間が整っている	0.22	1.04
	17	保育と幼児教育の提供体制が充実している	0.53	1.52		72	自治会やボランティア等との協働により、より良いまちづくりが進んでいる	0.24	1.08
	18	母子保健など、親と子の健康づくりの取組が進んでいる	0.50	1.44		24	国籍や民族、性別、心身の特性などの異なる人々が、互いの違いを尊重できるまちづくりが進んでいる	0.10	1.03
	19	メジカルセンターなど休日・夜間における医療体制が充実している	0.48	1.58		26	平和についての啓発が進んでいる	▲ 0.19	1.08
	20	市立病院の救急医療体制が充実している	0.49	1.54		31	地域のニーズを踏まえた社会教育の取組が進んでいる	0.06	1.08
	21	市立病院と地域のクリニック等との連携が充実している	0.32	1.43	32	家庭・地域・学校の協力が推進されている	0.10	1.10	
	22	検診、生活習慣病予防など、健康づくりの取組が進んでいる	0.68	1.33	33	生涯学習活動の支援や誰もが気軽に活動できる学習環境の整備が進んでいる	0.02	1.11	
	27	子どもたちが自ら課題に取り組む意欲をもっている	0.19	1.39	34	青少年健全育成会、子ども会活動など、青少年の健全育成の取組が充実している	0.08	1.03	
	29	安全な教育環境の整備が進んでいる	0.30	1.44	36	郷土文化の継承と発展の取組が進んでいる	0.14	0.69	
	30	人権教育やインクルーシブ教育の推進により、子どもたちが安心して共に学べる取組が進んでいる	0.22	1.36	37	あつぎ郷土博物館の取組が進んでいる	0.15	0.57	
	41	日常生活に必要な施設(スーパーマーケット、コンビニエンスストア、診療所など)が身近にある	0.98	1.59	39	スポーツ教室の開催や指導者の育成など、競技力を向上するための取組が充実している	0.11	0.77	
	42	安心・安全に通行できる道路環境の整備の取組が進んでいる	0.21	1.59	40	スポーツ施設が充実している	0.13	0.94	
	43	通勤や買物など日常生活における移動がスムーズにできている	0.55	1.53	46	中心市街地のにぎわいを感じている	▲ 0.22	1.17	
	50	商店街など、市内に利用したい店舗がある	0.18	1.31	49	新たな産業拠点の創出が進んでいる	▲ 0.02	1.08	
	65	ごみの減量化・資源化が進んでいる	0.53	1.47	51	創業支援や中小企業支援が充実している	▲ 0.16	1.12	
	69	身近に公園などがあり、緑豊かな生活環境が整っている	0.55	1.35	52	企業誘致が進んでいる	▲ 0.18	1.12	
	70	地域美化清掃の取組などにより、清潔で快適な生活環境が整っている	0.59	1.37	53	様々な分野でのロボットの導入など、先端技術産業の推進が図られている	▲ 0.28	0.86	
	73	市の情報媒体から必要な行政情報が発信されている	0.62	1.25	57	観光情報の発信が充実している	0.01	0.89	
	II 実感度:低い 重要度:高い	1	急傾斜地の崩壊防止や浸水被害防止など、災害に備えたハード整備が進んでいる	0.13	1.62	58	本市の魅力が市内外に発信されている	0.04	1.15
		3	自主防災隊の育成、避難所の機能強化など、地域防災力向上の取組が進んでいる	0.04	1.47	59	親元近居・同居のための住宅取得に対する補助など、定住促進の取組が進んでいる	▲ 0.18	1.03
		7	事故やけがなどがなく健康で安心・安全に暮らせるまちづくりが推進されている	0.14	1.48	60	農地の貸し借りの奨励や新規就農者支援など、農地有効利用の取組が進んでいる	▲ 0.11	0.90
		8	交通安全の取組が進んでいる	0.10	1.46	62	環境教育や環境学習の取組が進んでいる	0.01	1.12
		9	防犯の取組が進んでいる	▲ 0.05	1.61	63	再生可能エネルギーの普及が進んでいる	▲ 0.17	1.21
		11	高齢者、障がい者の就労・生きがいづくりに対する支援の取組が進んでいる	0.15	1.40	64	公共交通機関の利用啓発など、省エネの取組が進んでいる	▲ 0.12	1.13
		14	障がい者に対する福祉サービスや支援が充実している	0.16	1.45	66	生物多様性の普及や保全が進んでいる	▲ 0.11	0.98
15		支援を必要とする人を受け止める包括的な支援体制が充実している	0.13	1.49	67	里地里山の保全や活用が進んでいる	▲ 0.07	1.04	
23		介護予防と認知症に対する取組が進んでいる	0.01	1.36	68	森林整備など山林の再生が進んでいる	▲ 0.18	1.08	
25		困りごとに対する相談・支援体制が充実している	0.01	1.24	75	小・中学校や公民館、児童館などの公共建築物について、施設の老朽化に対する取組が進んでいる	0.12	1.22	
28		教職員研修や各種支援員の配置など、子どもたちを育てるための支援体制が充実している	0.10	1.43	76	防災や観光を始めとした市域を越える広域的な課題に対し、近隣市町村等と連携した取組が進んでいる	▲ 0.10	1.05	
44		空き家の対策など住環境の整備の取組が進んでいる	▲ 0.37	1.24	77	国内友好都市との交流が進んでいる	▲ 0.06	0.64	
45		中心市街地の整備が進んでいる	0.10	1.28					
54		就労のための情報提供や相談の実施など、就労支援や勤労者への支援が充実している	▲ 0.07	1.25					
74		社会環境の変化や市民ニーズに的確に対応した行政運営が行われている	0.01	1.30					
							平均値	0.18	1.23

(注)網かけは、実感度又は重要度の平均値を下回っている項目を示す。

### 3 令和5年度施策評価結果

#### 1 全体の評価結果



#### 2 基本政策別の評価結果

基本政策	年度	A	B	C	D	Aの割合
1 安心政策 (3 施策)	R5	2	1	0	0	66.7%
	R4	3	0	0	0	100.0%
2 輝き政策 (4 施策)	R5	3	0	1	0	75.0%
	R4	4	0	0	0	100.0%
3 成長政策 (4 施策)	R5	2	2	0	0	50.0%
	R4	4	0	0	0	100.0%
4 発展政策 (8 施策)	R5	5	3	0	0	62.5%
	R4	6	1	1	0	75.0%
5 潤い政策 (5 施策)	R5	2	3	0	0	40.0%
	R4	5	0	0	0	100.0%
6 共創政策 (3 施策)	R5	2	0	1	0	66.7%
	R4	3	0	0	0	100.0%
全施策 (27 施策)	R5	16	9	2	0	59.3%
	R4	25	1	1	0	92.6%

#### 3 基本施策別の評価結果

基本政策	基本施策	令和5年度結果		令和4年度結果	
		総合得点	総合評価	総合得点	総合評価
1 安心政策	1 災害に強いまちの実現	90.9	A	96.3	A
	2 消防力の充実・強化	93.3	A	98.8	A
	3 セーフコミュニティの推進	85.2	B	95.8	A
2 輝き政策	1 住み慣れた地域で自分らしく暮らせるまちの実現	91.0	A	97.5	A
	2 子育て環境の充実	95.8	A	98.3	A
	3 健康寿命延伸の推進	90.6	A	97.3	A
	4 多様性の尊重と平和都市の推進	75.5	C	93.3	A
3 成長政策	1 学校教育の充実	96.9	A	98.1	A
	2 地域での学びを支える社会教育と生涯学習の推進	92.9	A	98.3	A
	3 文化芸術の振興	83.4	B	99.4	A
	4 生涯スポーツの振興	88.5	B	90.0	A
4 発展政策	1 誰もが生活しやすいコンパクト・プラス・ネットワークの推進	85.9	B	89.7	B
	2 魅力ある中心市街地等の形成	85.3	B	93.9	A
	3 地域の個性をいかした魅力あるまちの実現	97.9	A	99.3	A
	4 産業・商業の振興	91.3	A	77.3	C
	5 安心して働くことができるまちの実現	93.5	A	100.0	A
	6 観光の振興	90.3	A	98.4	A
	7 シティプロモーションと定住促進	86.5	B	94.9	A
	8 農業・林業・水産業の振興	96.2	A	98.9	A
5 潤い政策	1 地球温暖化対策の推進	88.4	B	98.1	A
	2 未来へつなげる循環型都市の実現	95.5	A	97.9	A
	3 自然との共生の推進	85.1	B	98.3	A
	4 緑豊かで美しいまちの実現	92.5	A	97.1	A
	5 河川と共生するまちの実現	83.6	B	92.4	A
6 共創政策	1 市民参加・市民協働の推進	96.6	A	99.9	A
	2 行財政改革の推進	93.8	A	97.7	A
	3 都市間連携の推進	75.7	C	97.0	A

■ : 令和4年度と比較し総合評価結果が低下した施策  
 ■ : 令和4年度と比較し総合評価結果が上昇した施策



令和5年2月に実施した市民実感度調査により把握した「市民実感度」の目標値に対する達成状況を点数化（達成率の上限は100.0%）

◆市民実感度 【配点：30点】

（市民実感度調査で「そう思う」又は「ややそう思う」と回答した市民の割合）

指標①	R4目標値	R4実績値	達成率
急傾斜地の崩壊防止や浸水被害防止など、災害に備えたハード整備が進んでいると思う市民の割合	42.2%	38.1%	90.3%
指標②	R4目標値	R4実績値	達成率
災害時の情報伝達手段や防災訓練の実施など、災害対応力強化の取組が進んでいると思う市民の割合	53.1%	44.0%	82.9%
指標③	R4目標値	R4実績値	達成率
自主防災隊の育成、避難所の機能強化など、地域防災力向上の取組が進んでいると思う市民の割合	41.6%	35.4%	85.1%
指標④	R4目標値	R4実績値	達成率
	R4目標値	R4実績値	達成率
	R4目標値	R4実績値	達成率

基本施策を構成する実施計画事業に位置付ける指標の目標値に対する達成状況を点数化（達成率の上限は100.0%）  
 ※ 指標の詳細については、別添「実施計画取組実績」を参照

達成率平均  
× 配点30点で算出

市民実感度 達成率平均	86.1%
市民実感度 得点⑧	25.8

◆実施計画事業指標 【配点：20点】 （各実施計画事業に複数の指標がある場合は、その平均値）

施策の方向	No.	実施計画事業名	達成率
① 災害に強い社会基盤の整備	1	急傾斜地安全対策事業	100.0%
	2	準用河川安全対策事業	0.0%
	3	公共下水道浸水対策事業【公共下水道事業会計】	100.0%
	4	公共下水道厚木排水区浸水被害軽減事業【公共下水道事業会計】	100.0%
	5	厚木駅周辺地域都市再生安全確保計画改定事業	-
	6	無電柱化推進計画策定事業	-
	7	防災都市づくり計画策定事業	100.0%
	8	木造住宅耐震改修促進事業費補助事業	70.0%
	9	沿道建築物耐震促進事業費補助事業	0.0%
	10	耐震改修促進計画改定事業	100.0%
	11	宅地耐震化推進事業	100.0%
	12	災害拠点病院整備事業【病院事業会計】	100.0%
	13	建築確認台帳等電子化事業	100.0%
② 災害対応力の強化	14	総合防災訓練等事業	53.3%
	15	地区別防災マップ作成事業	-
	16	オールハザードマップ等作成事業	-
	17	新型防災ラジオ整備事業	100.0%
	18	地域防災計画改定事業	100.0%
	19	風水害等対策事業	75.0%
③ 地域防災組織の強化	20	風水害等対策事業【公共下水道事業会計】	25.0%
	21	地域防災力強化事業	61.7%

達成率平均  
× 配点20点で算出

実施計画事業指標 達成率平均	75.6%
実施計画事業指標 得点⑨	15.1



「施策の方向」別に位置付けている代表となる指標、市民実感度、実施計画事業

施策の方向	
① 災害に強い社会基盤の整備	
土砂崩れ対策、河川の洪水対策や下水道による浸水対策などにより、地震、風水害時のリスク軽減に向けた。促進の普及啓発を進め、必要な水準を満たさない建物の耐震化を支援します。	

代表となる指標								
指標①								
住宅の耐震化率								
年度	単位	現状値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値		-	91.1	92.1	93.0	94.0	95.0	96.0
実績値	%	89.8	92.7	92.9				
達成率		-	100.0	100.0				

代表となる指標 達成率
100.0%

市民実感度								
指標①								
急傾斜地の崩壊防止や浸水被害防止など、災害に備えたハード整備が進んでいると思う市民の割合								
年度	単位	現状値	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
目標値		-	41.5	42.2	42.9	43.6	44.3	45.0
実績値	%	40.8	40.3	38.1				
達成率		-	97.1	90.3				
【参考】実感度と重要度の関係性		II	II	II				

市民実感度 達成率
90.3%

実施計画事業		
事業名	達成率	施策貢献度
① 急傾斜地安全対策事業	100.0%	A
② 準用河川安全対策事業	0.0%	D
③ 公共下水道浸水対策事業【公共下水道事業会計】	100.0%	A
④ 公共下水道厚木排水区浸水被害軽減事業【公共下水道事業会計】	100.0%	A
⑤ 本厚木駅周辺地域都市再生安全確保計画改定事業	-	-
⑥ 無電柱化推進計画策定事業	-	-
⑦ 防災都市づくり計画策定事業	100.0%	A
⑧ 木造住宅耐震改修促進事業費補助事業	70.0%	C
⑨ 沿道建築物耐震促進事業費補助事業	0.0%	D
⑩ 耐震改修促進計画改定事業	100.0%	A
⑪ 宅地耐震化推進事業	100.0%	A
⑫ 災害拠点病院整備事業【病院事業会計】	100.0%	A
⑬ 建築確認台帳等電子化事業	100.0%	A

実施計画事業 達成率平均
79.1%

市民実感度調査で調査した「実感度」と「重要度」の関係性を4つに分類

- ・I 重点維持項目(実感度:高い・重要度:高い)
- ・II 重点改善項目(実感度:低い・重要度:高い)
- ・III 維持項目(実感度:高い、重要度:低い)
- ・IV 改善項目(実感度:低い、重要度:低い)

実施計画事業指標の目標値に対する達成率を、施策貢献度としてAからDまでの4段階に区分

- ・A 達成率90%以上
- ・B 達成率80%以上90%未満
- ・C 達成率60%以上80%未満
- ・D 達成率60%未満